

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
第3回「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」

B調査【中核拠点病院等調査】報告書

2014年

「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」の流れ

医療の進歩に伴い余命の延伸したHIV陽性者の生活には、医療機関での健康管理と共に、地域や職場での社会生活の重要性が高まっています。

そこで私たちは、行政や企業、学校、保健医療福祉機関、地域等の人々、HIV陽性者が、HIV感染症を理解したり支援策を立てたりするための基礎資料を作る目的で、2003年より、全国のHIV陽性者を対象に健康と生活の実態調査を行ってきました。

2013年度に実施した第3回調査は、病院種別で2つの調査に分けて実施しました。本報ではB調査の結果をご報告します。

第1回調査：2003年度 5病院 566名

【対象病院】 ACC・ブロック拠点病院、中核拠点病院の5病院（北海道・東京・大阪・九州）

【方法】 20歳以上65歳未満の外来受診HIV陽性者を対象に、無記名自己記入式質問紙を医療者より配布、HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。症状等で調査依頼困難な人、初診の人、日本語の読解が困難な人は対象外。九州と北海道は期間を限定せず配布、東京は1か月間、大阪は150票を配布。

【配布回収】 配布754票、回収566票（回収率72.3%）

【調査期間】 2003年12月から2004年5月

【研究主体】 平成15-16年度厚生労働科学研究費補助金「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」（代表:木村哲）分担研究「HIV感染者の地域生活支援におけるソーシャルワークに関する研究」（分担研究者：小西加保留、協力研究者：生島嗣、若林チヒロ）

第2回調査：2008年度 33病院 1,203名

【対象病院】 ACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院（2008年6月現在）の59病院に依頼状を郵送、35病院から返信があり、33病院から協力可能の承諾を得て、各病院の配付可能数を集約した。

【方法】 外来受診HIV陽性者を対象に、医療者が無記名自己記入式質問紙を配布。HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。配布は外来受診順としたが、症状等で依頼困難な人、初診の人、日本語の読解が困難な人は対象外とした。

【配布回収】 配布1,813票、回収1,203票（回収率66.4%）

【調査期間】 2008年12月～2009年6月。

【研究主体】 平成20-22年度厚生労働科学研究費補助金「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」（代表:生島嗣）分担研究「HIV陽性者の就労と社会参加に関する調査」（分担研究者：若林チヒロ）

第3回調査：2013年度 31病院 1,469名

【方法】 外来受診HIV陽性者を対象に、医療者が無記名自己記入式質問紙を配布。HIV陽性者自身が郵送にて調査事務局に返信。配布は外来受診順としたが、症状等で依頼困難な人、日本語の読解が困難な人は対象外とした。

【倫理審査】 埼玉県立大学倫理委員会にて承認（承認番号25001号）。合わせて倫理審査を必要とする各医療機関の倫理委員会においても審査を受けた。

【研究主体】 平成24-26年度厚生労働科学研究費補助金「HIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」（代表：樽井正義）分担研究「HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査」（分担研究者：若林チヒロ、研究協力者：生島嗣,ほか）

【A調査】 ブロック拠点病院とACC調査 9病院 1,100名

【配布回収】 対象者数は各病院の陽性者数の40%とし、2病院は実施体制等を考慮して抽出率を下げた。

配布1,786票、回収1,100票（回収率61.6%）

【調査期間】 2013年7月～12月

【対象病院】 ACCと全国8地域の各ブロック病院の計9病院。地域内に複数のブロック病院が指定されている場合は、もっとも陽性者数の多い1病院を対象とした。

- ・北海道大学病院
- ・独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
- ・独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
- ・独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
- ・独立行政法人国立国際医療研究センター/ACC
- ・広島大学病院
- ・新潟大学医歯学総合病院
- ・独立行政法人国立病院機構九州医療センター
- ・石川県立中央病院

【B調査】 中核拠点病院等調査 22病院 369名

【配布回収】 各病院の陽性者数と配布可能数を考慮して配布数を確定した。

配布687票、回収369票（回収率53.7%）

【調査期間】 2013年8月～2014年4月

【対象病院】 すべてのエイズ治療中核拠点病院（2012年9月現在）と、A調査で対象外としたブロック拠点病院に、郵便とメールで調査協力を依頼し、実施可能と返信があった病院を対象とした。58病院中30病院から回答があり、26病院が可能であった。

実施段階で日程等の都合で4病院が対象外となり、最終的に22病院を対象とした。

- ・札幌医科大学附属病院
- ・岐阜大学医学部附属病院
- ・旭川医科大学病院
- ・滋賀医科大学附属病院
- ・大館市立総合病院
- ・京都大学医学部附属病院
- ・筑波大学附属病院
- ・広島市立広島市民病院
- ・群馬大学医学部附属病院
- ・独立行政法人国立病院機構関門医療センター
- ・都立駒込病院
- ・香川大学医学部附属病院
- ・横浜市立大学附属病院
- ・長崎大学病院
- ・山梨県立中央病院
- ・熊本大学医学部附属病院
- ・新潟市民病院
- ・宮崎県立宮崎病院
- ・長野県立須坂病院
- ・鹿児島大学病院
- ・福井大学医学部附属病院
- ・琉球大学医学部附属病院

研究者一覧

研究分担者：若林 チヒロ（埼玉県立大学健康開発学科）

研究協力者：生島 嗣、大槻 知子（特定非営利活動法人ぷれいす東京）

大木 幸子（杏林大学保健学部看護学科）

遠藤 知之、渡部 恵子、坂本 玲子（北海道大学病院）

鳥本 悦宏、矢羽々 みえ子（旭川医科大学病院）

伊藤 俊広、伊藤 ひとみ（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）

高崎 義博（大館市立総合病院）

小川 孔幸、柳澤 邦雄、石崎 芳美（群馬大学医学部附属病院）

岡 慎一、池田 和子、大金 美和

（独立行政法人国立国際医療研究センター、エイズ治療・研究開発センター）

味澤 篤、今村 顕史、菅沼 明彦、柳澤 如樹（都立駒込病院）

水口 由佳、高木 愛子、友田 安政（横浜市立大学附属病院）

宮下 義啓（山梨県立中央病院）

田邊 嘉也、川口 玲、石塚 さゆり（新潟大学医歯学総合病院）

塚田 弘樹（新潟市民病院）

齊藤 博（長野県立須坂病院）

上田 幹夫、山田 三枝子、高山 次代（石川県立中央病院）

岩崎 博道（福井大学医学部附属病院）

鶴見 寿、石原 正志、鶴見 広美（岐阜大学医学部附属病院）

横幕 能行、羽柴 知恵子（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）

小泉 祐介、美濃 亜朱（滋賀医科大学附属病院）

小林 正行、高折 晃史、松井 佑亮、北川 綾子（京都大学医学部附属病院）

白阪 琢磨、下司 有加、岡本 学（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター）

藤井 輝久、鍵浦 文子、木下 一枝（広島大学病院）

野田 昌昭（広島市立広島市民病院）

窪田 良次（香川大学医学部附属病院）

山本 政弘、城崎 真弓（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

古本 朗嗣（長崎大学病院）

松下 修三、宮川 寿一、中田 浩智（熊本大学医学部附属病院）

菊池 郁夫（宮崎県立宮崎病院）

橋口 照人、古川 良尚、恒吉 里美（鹿児島大学病院）

健山 正男（琉球大学医学部附属病院）

佐藤歩実、片岡莉恵（埼玉県立大学）

調査項目一覧

1 基本的属性について		P.6
1) 性別	4) 学歴	
2) 年齢	5) 在学・卒業	
3) 感染経路	6) 国籍	
	7) 階層帰属意識	
2 HIV関連の健康状態と健康管理		P.7
1) CD4細胞数	5) HIV診療での通院頻度	
2) HIVウイルス量	6) すべての診療での通院頻度	
3) エイズ発症	7) 定期受診している病気、けが、妊娠	
4) 抗HIV薬の服用回数	8) この1年間の入院日数	
	8-1) この1年間の入院理由	
3 ふだんの健康状態と健康行動		P.10
1) 主観的な健康感	7) 喫煙	
2) 健康問題による日常生活への影響	7-1) 喫煙本数と喫煙開始年齢	
3) 自覚症状	8) 飲酒	
4) すいみん時間	8-1) 飲酒の回数と量	
5) すいみんでの問題	9) メンタルヘルス (K6尺度)	
6) すいみん薬・安定剤の使用		
4 HIV陽性とわかった当時とその後の生活		P.15
1) HIV検査機関	8) 告知時の就労の有無	
2) HIV告知年	8-1-1) 【就労者に】告知時の就労形態	
3) HIV告知を受けた地域	8-1-2) 【就労者に】告知時の雇用形態	
4) HIV告知時のエイズ発症	8-2) 【非就労者に】告知時の職業	
5) 感染可能性の認識	9) 告知後の離転職	
6) 居住地	9-1) 離職理由	
7) 告知後の居住地移動		
7-1) 【転居した人に】転居理由		
5 世帯や生計、制度の利用		P.21
1) 同居者	5) 健康保険	
2) 世帯の家計主	6) 健康診断	
3) 世帯の年収	7) 障害者手帳	
3-a) 世帯の収入源	8) 障害者雇用制度での就労の有無	
3-b) もっとも主な収入源	9) 障害者雇用制度の利用意向	
4) 暮らし向き	10) 障害者雇用制度の評価	
6 ふだんの生活と人間関係		P.25
1) 地域活動・社会活動・陽性者ネットワーク	6) 将来の生活設計	
2) 周囲の人たちへの病名開示	7) 病気による制約感	
3) HIV開示しての就学・就労の相談先	8) HIV告知以降の生活意識変化	
4) 主治医からの就労アドバイス	9) HIVによる差別回避行動	
5) 将来の就労意向	10) 差別経験	
7 就労について		P.31
1) 就労の有無		
8 就労の状況		P.31
1) 1か月の就労日数	6) 職種	
2) 1週間の就労日数と時間	7) 勤務先の企業規模	
3) 健康問題による休暇・休業	8) 勤務先の業種	
4) 就労収入	9) 職場でプライバシー漏洩が不安な事項	
5) 雇用形態	10) 仕事・職場の評価	
9 非就労の状況		P.37
1) 非就労の理由	3) 就労希望	
2) 就労準備状況	3-1) 就労希望者の非就労期間	
	4) 就労や就職活動の問題点	
10 日本のエイズ対策への評価		P.39
1) 行政、医療、社会のエイズ対策評価		
11 薬物について		P.39
1) ドラッグ使用経験の有無	2) 必要な薬物の情報や相談	
1-1) 種類別薬物使用経験	3) 薬物の相談先	
1-2) 薬物開始時期		
1-3) 薬物使用量のコントロール感		
1-4) 今後の利用意向		

■ 単純集計結果 ■

結果の読み取りに際して

- ・「%」は、欠損値を除いて集計した。
- ・各表の下に付したコメントの数値のうち、2項目以上を加算している場合は、度数から再計算している。そのため、表中の値を単純加算した値とは必ずしも一致しない。
- ・複数回答の質問（1つの質問に対して2つ以上の選択肢を選ぶ質問形式）の場合、回答した人の人数を「全体」で示し、それぞれの選択肢に回答した人数の「全体」に対する割合を「%」で示している。そのため、合計すると100.0%を超える場合がある。
- ・健康状態は、回答がHIV陽性者自身によるものであるため、医学的診断とは必ずしも一致しない。

1. 基本的属性について

1) 性別

Q. 性別

回答者の93.5%が男性で、女性は6.5%。

	n	%
男性	343	93.5
女性	24	6.5
その他	0	0.0
合計	367	100.0
無回答	2	
	369	

2) 年齢

Q. 年齢

平均45.9±12.0歳、22~76歳まで広く分布している。60歳以上が17.4%、65歳以上は8.4%。

	n	%
20~24歳	7	1.9
25~29歳	20	5.4
30~34歳	36	9.8
35~39歳	64	17.4
40~44歳	57	15.5
45~49歳	53	14.4
50~54歳	36	9.8
55~59歳	30	8.2
60~64歳	33	9.0
65~69歳	22	6.0
70~74歳	7	1.9
75~79歳	2	0.5
合計	367	100.0
無回答	2	
	369	

3) 感染経路

Q. あなたのHIV感染経路と思うもの（複数回答）

同性間の性的接触が感染経路という人は74.6%、異性間の性的接触という人が22.7%、感染経路が不明とする人は7.1%。

	n	%
異性間の性的接触	83	22.7
同性間の性的接触	273	74.6
注射器の共用	6	1.6
血液凝固因子製剤	6	1.6
血液凝固因子製剤 の二次・三次感染	3	0.8
輸血	7	1.9
その他	4	1.1
不明	26	7.1
全体	366	
無回答	3	
全体	369	

2. HIV関連の健康状態と健康管理

4) 学歴

Q. 最終学歴（学生の方は在学先）
大学卒業以上が39.9%と多い。

	n	%
小・中学校	28	7.7
高校	110	30.3
専門学校	68	18.7
短大・高専	12	3.3
大学	133	36.6
大学院	12	3.3
合計	363	100.0
無回答	6	
	369	

5) 在学・卒業

Q. 上記の学校の在学・卒業

	n	%
在学中（休学を含む）	6	1.7
卒業	311	89.6
中退	30	8.6
合計	347	100.0
無回答	22	
	369	

6) 国籍

Q. 国籍

調査票レベルの日本語読み書きが可能な方を調査対象としたため、外国籍の方が3.0%と少ない。

	n	%
日本	356	97.0
日本以外	11	3.0
合計	367	100.0
無回答	2	
	369	

7) 階層帰属意識

Q. 世間一般の暮らしぶりを6つに区分すると、あなたの世帯はどの辺りにあてはまると思いますか

中流という方が65.6%と多いが、下流とした方も32.0%。

	n	%
上の上	2	0.6
上の下	7	1.9
中の上	103	28.4
中の下	135	37.2
下の上	80	22.0
下の下	36	9.9
合計	363	100.0
無回答	6	
	369	

1) CD4細胞数

Q. 直近のCD4値（個/ μ l）

500個/ μ l以上の方が41.3%と最も多い。全体の82.1%の人は200個/ μ l以上である。

	n	%
～99	25	7.0
100～	22	6.1
200～	61	17.0
350～	85	23.7
500～	148	41.3
分からない	17	4.7
合計	358	100.0
無回答	11	
	369	

2) HIVウイルス量

Q. 直近のHIVウイルス量

74.5%の人がウイルス量を検出限界以下に抑えている

	n	%
検出限界以下	266	74.5
検出された	67	18.8
分からない	24	6.7
合計	357	100.0
無回答	12	
	369	

3) エイズ発症

Q. エイズ発症

エイズ発症経験がある人は37.0%

	n	%
経験あり	133	37.0
経験なし	208	57.9
分からない	18	5.0
合計	359	100.0
無回答	10	
	369	

4) 抗HIV薬の服用回数

Q. 抗HIV薬の1日の服用回数

94.8%の人が抗HIV薬を服用している。52.2%の人は1日1回の服用。

	n	%
1回	189	52.2
2回	147	40.6
3回以上	7	1.9
休薬中	1	0.3
服薬を始めていない	18	5.0
合計	362	100.0
無回答	7	
	369	

5) HIV診療での通院頻度

Q. HIV診療での通院頻度

6) すべての診療での通院頻度

Q. HIVに加えて、その他の病気やけが、妊娠も含めて、すべての診療での通院頻度

HIV診療の通院頻度は、2ヶ月に1回の人が42.9%と最も多い。

HIV診療での通院頻度が1ヶ月に1回以上（1ヶ月2回以上+1ヶ月1回）の人は27.4%であるが、HIV以外の疾患等も含めると48.0%となる。

	H I V診療での通院頻度		すべての診療での通院頻度	
	n	%	n	%
1ヶ月に2回以上	3	0.8	47	13.4
1ヶ月に1回	96	26.6	121	34.6
2ヶ月に1回	155	42.9	126	36.0
3ヶ月に1回	103	28.5	54	15.4
4か月1回	3	0.8	1	0.3
5ヶ月以上に1回	1	0.3	1	0.3
合計	361	100.0	350	100.0
無回答	8		19	
	369		369	

7) 定期受診している病気、けが、妊娠

Q. HIV感染症以外で、定期的に診察を受けている病気、けが、妊娠（複数回答）

63.1%の人はHIV感染症以外の疾患等で定期受診している。「歯・口腔の病気」は16.6%、「うつ・心・精神の病気」は10.8%など、多様な目的で受診している。「その他」は、皮膚疾患、整形外科関連の疾患や障害を挙げた人が多かった。

	n	%
糖尿病	21	6.1
高脂血症	18	5.2
高血圧症	26	7.6
心臓の病気	10	2.9
B型肝炎	13	3.8
C型肝炎	12	3.5
腎臓病・透析	6	1.7
胃腸病・痔	11	3.2
うつ・心・精神の病気	37	10.8
依存症	4	1.2
がん	3	0.9
アレルギー疾患	23	6.7
血友病・血液凝固因子症	6	1.7
歯・口腔の病気	57	16.6
眼の病気	30	8.7
骨折・けが	9	2.6
HIV以外の性感染症	9	2.6
婦人科系の病気	4	1.2
妊娠・出産	1	0.3
その他	29	8.4
とくになし	127	36.9
全体	344	
無回答	25	
全体	369	

定期受診疾患等数

	n	%
1種類	136	39.5
2種類	59	17.2
3種類	17	4.9
4種類	2	0.6
5種類	1	0.3
6種類	2	0.6
とくになし	127	36.9
合計	344	100.0
無回答	25	
	369	

HIV以外で定期受診している疾患等の数は、21種類のうち1種類を挙げた人が全体の39.5%、2種類以上挙げた人は23.5%

8) この1年間の入院日数

Q. HIVに関わらず、この1年間の入院日数

過去1年間に入院した人は16.0%で、84.0%は入院していない。

	n	%
1～9日間	22	6.1
10～29日間	19	5.2
30日間以上	16	4.4
日数不明	1	0.3
入院なし	304	84.0
合計	362	100.0
無回答	7	
	369	

8-1) この1年間の入院理由

Q. この1年間に入院した理由（複数回答）

この1年間に入院した人の入院理由は、「HIV関連の疾患や症状」と「HIV関連の服薬や副作用」で50.9%。

「HIVとの関連は不明の疾患や症状」も22.8%。

HIV関連だけでなく、「HIVやC型肝炎とは関連のない疾患やけが」24.6%や、「妊娠・出産」1.8%。

「C型肝炎」は3.5%。

	n	%	「入院あり」 の%	
HIV関連の服薬や副作用	6	1.7	6	10.5
C型肝炎	2	0.6	2	3.5
HIV関連の疾患や症状	23	6.4	23	40.4
HIVやC型肝炎とは関連のない疾患やけが	14	3.9	14	24.6
HIVとの関連は不明の疾患や症状	13	3.6	13	22.8
妊娠・出産	1	0.3	1	1.8
その他	3	0.8	3	5.3
入院なし	304	84.2		
全体	361	100.0	57	100.0
無回答（入院理由）	1		1	
無回答	7			
全体	369		58	

3 ふだんの健康状態と健康行動

1) 主観的な健康感

Q. あなたの現在の健康状態

主観的健康感は65.0%がよい（「よい」「まあよい」）、7.5%がよくない（「あまりよくない」「よくない」）と回答。

	n	%
よい	135	37.5
まあよい	99	27.5
ふつう	99	27.5
あまりよくない	24	6.7
よくない	3	0.8
合計	360	100.0
無回答	9	
	369	

2) 健康問題による日常生活への影響

Q. 現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか

影響が「ある」と感じている人は17.1%。

具体的には、「仕事・家事・学業（時間や作業量が制限される）」に影響があるとした人が最も多く、全体の9.0%。

	n	%
影響あり	61	17.1
影響なし	296	82.9
合計	357	100.0
無回答	12	
	369	

Q. 具体的には、どのようなことですか

具体的な、日常生活への影響

(複数回答)

	n	%	n	「影響あり」 の%
日常生活動作（起床、衣服着脱、食事、入浴等）	11	3.1	11	18.3
外出（時間や作業量などが制限）	16	4.5	16	26.7
仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限）	32	9.0	32	53.3
運動・スポーツ	21	5.9	21	35.0
その他	11	3.1	11	18.3
影響なし	296	83.1		
全体	356	100.0	60	
無回答（具体的な影響）	1		1	
無回答（主問）	12			
全体	369		61	

3) 自覚症状

Q. この数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところがありますか。どのような症状ですか

自覚症状がある人は50.4%。具体的には、「体がだるい」14.6%、「肩こり」13.7%、「腰痛」12.6%、「皮膚のかゆみ」10.9%、「下痢」10.1%の順（全体の%）。

			愁訴			(複数回答)		
						「症状あり」 の%		
	n	%		n	%		n	%
ある	180	50.4	全身	熱がある	12	3.4		6.7
ない	177	49.6		体がだるい	52	14.6		28.9
合計	357	100.0		眠れない	29	8.1		16.1
無回答	12			いらいらしやすい	18	5.0		10.0
	369			もの忘れ	16	4.5		8.9
				頭痛	29	8.1		16.1
				めまい	20	5.6		11.1
			胸・呼吸	どうき	9	2.5		5.0
				息切れ	10	2.8		5.6
				胸の痛み	5	1.4		2.8
				ゼイゼイする	8	2.2		4.4
				せき・たん	30	8.4		16.7
				鼻づまり・鼻水	26	7.3		14.4
			腹・消化	胃のもたれ・胸やけ	23	6.4		12.8
				吐き気	16	4.5		8.9
				下痢	36	10.1		20.0
				便秘	10	2.8		5.6
				食欲がない	8	2.2		4.4
				腹痛・胃痛	11	3.1		6.1
				ぢの痛み/出血	9	2.5		5.0
			目耳口歯	目のかすみ	25	7.0		13.9
				物を見づらい	22	6.2		12.2
				耳なりがする	13	3.6		7.2
				きこえにくい	9	2.5		5.0
				歯が痛い	10	2.8		5.6
				かみにくい	4	1.1		2.2
				歯ぐきのはれ・出血	19	5.3		10.6
			手足肩腰	肩こり	49	13.7		27.2
				腰痛	45	12.6		25.0
				手足の関節が痛む	19	5.3		10.6
				手足の動きが悪い	10	2.8		5.6
				手足のしびれ	30	8.4		16.7
				手足が冷える	13	3.6		7.2
				足のむくみ・だるさ	12	3.4		6.7
			皮ふ	発疹(じんま疹/でき物)	28	7.8		15.6
				かゆみ(しっしん/水虫など)	39	10.9		21.7
			尿・生理	尿が出にくい・痛い	4	1.1		2.2
				尿の回数が多い	18	5.0		10.0
				尿失禁・ぬれる	3	0.8		1.7
				月経不順・月経痛	1	0.3		0.6
			けが・他	骨折・ねんざ・脱きゆう	1	0.3		0.6
				切り傷・やけどなどのけが	4	1.1		2.2
				その他	5	1.4		2.8
			自覚症状なし		177	49.6		
			全体		357	100.0		
			無回答(主問)		12			
			全体		369			

4) すいみん時間

Q. この1ヶ月間の、1日の平均睡眠時間

「6時間以上7時間未満」が38.9%と多い。5時間未満も8.5%。

	n	%
5時間未満	31	8.5
5時間～	79	21.6
6時間～	142	38.9
7時間～	76	20.8
8時間～	32	8.8
9時間以上	5	1.4
合計	365	100.0
無回答	4	
	369	

5) すいみんでの問題

Q. この1ヶ月間に、寝どこに入っても寝つきが悪い、途中で目が覚める、朝早く目覚める、熟睡ができないなど、眠れないことがありましたか

60.2%の人が睡眠に問題を感じている（「頻繁にある」「時々ある」）。

	n	%
ひんぱんにある	59	16.2
時々ある	160	44.0
めったにない	100	27.5
まったくない	45	12.4
合計	364	100.0
無回答	5	
	369	

6) すいみん薬・安定剤の使用

Q. この1ヶ月間に、眠るために睡眠薬や安定剤などの薬を使いましたか

眠るために睡眠薬や安定剤などを「つねに」使う人が12.7%、「ときどき」と合わせると19.3%。

	n	%
まったく使わない	272	75.1
めったに使わない	20	5.5
ときどき使う	24	6.6
つねに使う	46	12.7
合計	362	100.0
無回答	7	
	369	

7) 喫煙

Q. たばこを吸いますか

喫煙率は32.3%（「ほぼ毎日」+「ときどき」）。禁煙した人も23.0%。

	n	%
ほぼ毎日吸う	102	27.9
時々吸う	16	4.4
やめた	84	23.0
吸わない	163	44.7
合計	365	100.0
無回答	4	
	369	

7-1) 喫煙本数と喫煙開始年齢

Q. （喫煙する方に）喫煙本数と喫煙開始年齢

1日21本以上たばこを吸う人は全体の4.4%。

	n	%
1～10本	38	10.5
11～20本	61	16.9
21本以上	16	4.4
吸わない	247	68.2
合計	362	100.0
無回答（主問）	4	
無回答	3	
	369	

	n	%
17歳以下	24	6.7
18～19歳	20	5.6
20歳以上	65	18.3
吸わない	247	69.4
合計	356	100.0
無回答（主問）	4	
無回答	9	
	369	

8) 飲酒

Q. お酒を飲みますか

飲酒率は57.5%。やめた人も6.3%。

	n	%
飲む	210	57.5
やめた	23	6.3
飲まない	132	36.2
合計	365	100.0
無回答	4	
	369	

8-1) 飲酒の回数と量

Q. (お酒を飲む方に) 飲む回数と飲む量

毎日飲酒する人は全体の8.0%。

	n	%
月1~3日	84	23.2
週1~2日	52	14.4
週3~4日	21	5.8
週5~6日	21	5.8
毎日	29	8.0
飲まない	155	42.8
合計	362	100.0
無回答 (主問)	4	
無回答	3	
	369	

1回の飲酒で3合以上は全体の15.5%。

	n	%
1合未満	36	10.3
1合くらい	57	16.3
2合くらい	47	13.5
3~4合	33	9.5
5合以上	21	6.0
飲まない	155	44.4
合計	349	100.0
無回答 (主問)	4	
無回答	16	
	369	

9) メンタルヘルス (K6尺度)

Q. この1ヶ月の間に、どれくらいのひん度で次のことがありましたか

メンタルヘルスの評価はK6尺度を用いた。K6スケールは、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。6つの質問について5段階(0~4点)で点数化し(合計0~24点)、合計が高いほど精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。厚生労働省が実施する「国民生活基礎調査」において一般住民対象に実施されている。

5点以上が41.6%、より深刻な状態とされる13点以上は9.5%。

精神健康についての質問 (K6尺度)

		まったく ない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	合計	無回答	合計
神経過敏に感じましたか	n	195	77	55	16	17	360	9	369
	%	54.2	21.4	15.3	4.4	4.7	100.0		
絶望的だと感じましたか	n	197	86	48	13	17	361	8	369
	%	54.6	23.8	13.3	3.6	4.7	100.0		
それぞれ、落ち着かなく感じましたか	n	205	87	48	13	9	362	7	369
	%	56.6	24.0	13.3	3.6	2.5	100.0		
気分が沈み込んで、何が起ころうとも 気が晴れないように感じましたか	n	157	113	56	19	17	362	7	369
	%	43.4	31.2	15.5	5.2	4.7	100.0		
何をするのも骨折りだと感じましたか	n	189	98	45	16	13	361	8	369
	%	52.4	27.1	12.5	4.4	3.6	100.0		
自分は価値のない人間だと 感じましたか	n	188	79	56	20	19	362	7	369
	%	51.9	21.8	15.5	5.5	5.2	100.0		

K6スケールの合計得点分布

	n	%
0~4点	209	58.4
5~9点	84	23.5
10~14点	42	11.7
15点以上	23	6.4
合計	358	100.0
無回答	11	
	369	

	n	%
0~4点	209	58.4
5~12点	115	32.1
13点以上	34	9.5
合計	358	100.0
無回答	11	
	369	

4 HIV陽性とわかった当時とその後の生活口

1) HIV検査機関

Q. HIV陽性とわかった時の、最初の検査はどこでしたか

医療機関（「診療所」「外来」「入院」）が74.4%、公的検査所（「保健所」「常設検査施設」）が17.1%、「献血」が4.7%。

	n	%
保健所	49	13.5
常設検査施設	13	3.6
自己検査キット	1	0.3
郵送検査キット	3	0.8
診療所・クリニック	26	7.2
病院（外来）	131	36.1
病院（入院）	113	31.1
妊娠・出産時の検査	1	0.3
イベントでの検査	5	1.4
献血	17	4.7
その他	4	1.1
合計	363	100.0
無回答	6	
	369	

2) HIV告知年

Q. HIV陽性告知を受けたのはいつでしたか

2011年以降というこの数年内に感染が判明した人が30.1%を占める。

	n	%
1987	2	0.6
1988	3	0.9
1989	1	0.3
1990	4	1.2
1992	3	0.9
1993	5	1.4
1994	1	0.3
1995	3	0.9
1996	3	0.9
1997	3	0.9
1998	7	2.0
1999	7	2.0
2000	11	3.2
2001	9	2.6
2002	12	3.5
2003	15	4.3
2004	14	4.1
2005	14	4.1
2006	12	3.5
2007	29	8.4
2008	33	9.6
2009	25	7.2
2010	25	7.2
2011	47	13.6
2012	34	9.9
2013	23	6.7
合計	345	100.0
無回答	24	
	369	

HIV告知年(再集計)

	n	%
～1995	22	6.4
1996～2000	31	9.0
2001～2005	64	18.6
2006～2010	124	35.9
2011～	104	30.1
合計	345	100.0
無回答	24	
	369	

3) HIV告知を受けた地域

Q. HIV陽性告知を受けた病院や保健所は、どこの都道府県または国にありましたか
調査票配付病院は23都道府県であるが、感染判明施設は33都道府県に及んでいる。

	n	%
北海道	8	2.2
秋田県	4	1.1
茨城県	20	5.6
栃木県	2	0.6
群馬県	27	7.5
埼玉県	13	3.6
千葉県	6	1.7
東京都	69	19.2
神奈川県	30	8.3
新潟県	4	1.1
山梨県	12	3.3
長野県	7	1.9
岐阜県	26	7.2
静岡県	3	0.8
三重県	1	0.3
愛知県	11	3.1
福井県	9	2.5
石川県	1	0.3
滋賀県	9	2.5
京都府	13	3.6
大阪府	9	2.5
兵庫県	1	0.3
奈良県	1	0.3
岡山県	1	0.3
広島県	4	1.1
山口県	9	2.5
香川県	1	0.3
福岡県	2	0.6
長崎県	6	1.7
熊本県	13	3.6
宮崎県	3	0.8
鹿児島県	11	3.1
沖縄県	21	5.8
海外	3	0.8
合計	360	100.0
無回答	9	
	369	

4) HIV告知時のエイズ発症

Q. HIV陽性告知を受けた際、エイズを発症していましたか
30.7%の人は告知時に既にエイズ発症していた

	n	%
発症していた	111	30.7
発症していなかった	218	60.4
わからない	32	8.9
合計	361	100.0
無回答	8	
	369	

5) 感染可能性の認識

Q. HIV陽性告知を受ける前、HIVに感染している可能性はどの程度あるとお考えでしたか

陽性告知を受ける前に「HIV感染の可能性が（かなり/ある程度）ある」と考えていた人は47.1%で、52.9%の人は「可能性はない（まったくない/ほとんど）」とっていた。

	n	%
かなりある	22	6.1
ある程度ある	147	40.9
ほとんどない	121	33.7
まったくない	69	19.2
合計	359	100.0
無回答	10	
	369	

6) 居住地

Q. 「HIV陽性告知を受けた当時」と「現在」の居住地

居住地：HIV陽性とわかった当時		
	n	%
北海道	9	2.5
秋田県	4	1.1
茨城県	19	5.3
栃木県	1	0.3
群馬県	29	8.0
埼玉県	15	4.2
千葉県	9	2.5
東京都	63	17.5
神奈川県	31	8.6
新潟県	4	1.1
山梨県	12	3.3
長野県	8	2.2
岐阜県	29	8.0
静岡県	3	0.8
三重県	1	0.3
愛知県	7	1.9
福井県	10	2.8
滋賀県	10	2.8
京都府	16	4.4
大阪府	5	1.4
兵庫県	2	0.6
奈良県	1	0.3
広島県	4	1.1
山口県	9	2.5
香川県	1	0.3
福岡県	2	0.6
長崎県	6	1.7
熊本県	13	3.6
宮崎県	3	0.8
鹿児島県	11	3.0
沖縄県	21	5.8
海外	3	0.8
合計	361	100.0
無回答	8	
	369	

居住地：現在		
	n	%
北海道	10	2.8
秋田県	4	1.1
茨城県	17	4.7
栃木県	1	0.3
群馬県	29	8.0
埼玉県	11	3.0
千葉県	6	1.7
東京都	62	17.2
神奈川県	30	8.3
新潟県	5	1.4
山梨県	18	5.0
長野県	10	2.8
岐阜県	28	7.8
静岡県	1	0.3
愛知県	1	0.3
福井県	11	3.0
滋賀県	11	3.0
京都府	22	6.1
大阪府	1	0.3
広島県	3	0.8
山口県	10	2.8
香川県	2	0.6
福岡県	1	0.3
長崎県	7	1.9
熊本県	16	4.4
宮崎県	3	0.8
鹿児島県	13	3.6
沖縄県	27	7.5
日本	1	0.3
合計	361	100.0
無回答	8	
	369	

7) 告知後の転居

Q. HIV陽性告知を受けて以降、転居しましたか

31.3%の人がHIV判明後に転居している。

転居理由は、個人的な事情と、仕事の都合や生活改善のためが多い。

HIVとの関連で、全体の5.8%の人が「HIV治療のため」、1.1%が「HIVで居づらくなった」、2.2%が「福祉サービスの質や種類」、3.0%が「障害者手帳が取得しづらかった」ことを挙げていた。

	n	%
転居した	113	31.3
転居していない	248	68.7
合計	361	100.0
無回答	8	
	369	

(7-1) 【転居した人に】

Q. 転居した理由は何でしたか

(複数回答)

	n	%	「転居した」 113名中の%
HIVの治療のため	21	5.8	18.6
障害者手帳が取得しづらかったため	11	3.0	9.7
福祉サービスの質や種類のため	8	2.2	7.1
生活の改善のため	24	6.6	21.2
仕事の都合	28	7.8	24.8
HIVのため居づらくなったため	4	1.1	3.5
その他の個人的な事情から	58	16.1	51.3
転居していない	248	68.7	
全体	361	100.0	
無回答 (主問)	8		
全体	369		

8) 告知時の就労の有無

Q. HIV陽性告知を受けた当時、収入をとまなう仕事をしていましたか (自営の手伝いや内職も含む)

HIV告知を受けた当時就労していた人は82.5%であった。

	n	%
就労していた (休職中を含む)	297	82.5
就労していなかった	63	17.5
合計	360	100.0
無回答	9	
	369	

8-1-1) 【就労者に】告知時の就労形態

Q. HIV陽性告知を受けた当時の働き方

主に就労していた人が全体の71.1%と多い。

	n	%
主に就労	253	71.1
家事などのかたわら就労	9	2.5
通学のかたわら就労	4	1.1
仕事を休んでいた、休職中	27	7.6
就労していなかった	63	17.7
合計	356	100.0
無回答 (主問)	9	
無回答	4	
	369	

8-1-2) 【就労者に】告知時の雇用形態

Q. HIV陽性告知を受けた当時の雇用形態（休職中だった方は休職前）

	n	%
自営業（個人/家族経営）	32	8.9
事業主（従業員を雇用）	12	3.3
家族従業員	2	0.6
公務員（常勤）	23	6.4
企業・団体の役員	4	1.1
企業・団体の正社員	135	37.6
契約社員	26	7.2
嘱託職員	4	1.1
パート・アルバイト	39	10.9
派遣社員	14	3.9
その他	5	1.4
就労していなかった	63	17.5
合計	359	100.0
無回答（主問）	9	
無回答	1	
	369	

8-2) 【非就労者に】告知時の職業

Q. HIV陽性の告知を受けた当時の職業は何でしたか

HIV告知を受けた当時、学生だった人は4.2%、専業主婦・主夫だった人は1.9%、無職だった人は11.4%。

	n	%
専業主婦・主夫	7	1.9
学生	15	4.2
無職	41	11.4
就労していた	297	82.5
合計	360	100.0
無回答（主問）	9	
	369	

9) 告知後の離転職

Q. HIV陽性告知を受けて以降、離転職をしましたか。した方は、仕事をやめた回数を教えて下さい
HIV判明後に離職した人は40.2%。

	n	%
した	140	40.2
していない	208	59.8
合計	348	100.0
無回答	21	
	369	

	n	%
1回	60	18.2
2回	30	9.1
3~4回	22	6.7
5回以上	10	3.0
離転職していない	208	63.0
合計	330	100.0
無回答（主問）	21	
無回答（Q3_9_回数）	18	
	369	

9-1) 離職理由

Q. もっとも最近の離職の理由は何でしたか（複数回答）

直近の離職の理由は、「精神的な問題」が最も多く、次いで「体力的な問題」、「より良い条件の仕事を探すため」の順。

	n	%	n	「離転職した」 136名中の%
会社の倒産・事業所閉鎖	10	2.9	10	7.4
人員整理・勧奨退職	16	4.7	16	11.8
事業不振や先行き不安	12	3.5	12	8.8
定年・雇用契約の満了	14	4.1	14	10.3
よりよい条件の仕事を探すため	28	8.1	28	20.6
仕事よりも健康や生活を重視して	19	5.5	19	14.0
体力的な問題	33	9.6	33	24.3
健康管理上の都合（服薬・通院・入院など）	23	6.7	23	16.9
精神的な問題	41	11.9	41	30.1
職業訓練や技術習得	9	2.6	9	6.6
HIVに対する偏見でいづらくなった	9	2.6	9	6.6
休職可能な期間を越えた治療が必要であった	9	2.6	9	6.6
HIVによる解雇	12	3.5	12	8.8
結婚・出産・育児・介護・看護のため	3	0.9	3	2.2
その他	14	4.1	14	10.3
離転職していない	208	60.5		
全体	344	100.0	136	
無回答（離職理由）	4		4	
無回答（主問）	21			
全体	369			

5 世帯や生計、制度の利用

1) 同居者

Q. 現在、あなたが同居している人は誰ですか（複数回答）

37.0%の人は一人で暮らしている。同居者がいる人は、「父母」との同居が33.7%、「夫・妻」が19.3%、「パートナー」が7.7%、「子」が11.0%。

	n	%
ひとり暮らし	134	37.0
同居者あり	228	63.0
夫・妻	70	19.3
パートナー・恋人	28	7.7
友人	6	1.7
子	40	11.0
父母	122	33.7
祖父母	6	1.7
きょうだい	30	8.3
その他	10	2.8
全体	362	
無回答	7	
全体	369	

2) 世帯の家計主

Q. 世帯全体の家計を「主に」支えている人は誰ですか（年金や生活保護が主な方は受給者）

65.1%の人は世帯全体の家計を主で支えている。

	n	%
あなたご自身	235	65.1
夫・妻	15	4.2
パートナー・恋人	16	4.4
子	1	0.3
父母	61	16.9
きょうだい	6	1.7
その他	4	1.1
あなたと同居者と等分	23	6.4
合計	361	100.0
無回答	8	
	369	

3) 世帯の年収

Q. 世帯全体の、昨年1年間の収入について

3-a) 世帯の収入源

Q. 世帯全体の収入源（複数回答）

自分の就労収入が70.1%と最も多く、次いで同居者の就労収入26.0%。

	n	%
自分の就労収入	253	70.1
同居者の就労収入	94	26.0
仕送り・援助	14	3.9
事業・内職・農業収入	12	3.3
家賃・利子・配当金	15	4.2
預貯金の取りくずし	32	8.9
障害年金	26	7.2
その他の年金・恩給	63	17.5
失業給付	4	1.1
傷病手当	6	1.7
生活保護	30	8.3
薬害被害の健康管理費用	2	0.6
薬害被害の発症者健康管理手当	1	0.3
その他	5	1.4
全体	361	
無回答	8	
全体	369	

3-b) もっとも主な収入源

Q. 世帯全体のもっとも「主な」収入源（1つ）

56.9%の人は自身の就労収入が世帯全体のもっとも主な収入源としている。

年金が主な収入源の人は、障害年金1.8%、その他年金10.5%。（親等本人以外の年金も含む）

	n	%
自分の就労収入	189	56.9
同居者の就労収入	50	15.1
仕送り・援助	3	0.9
事業・内職・農業収入	5	1.5
家賃・利子・配当金	3	0.9
預貯金の取りくずし	6	1.8
障害年金	6	1.8
その他の年金・恩給	35	10.5
失業給付	1	0.3
生活保護	29	8.7
薬害被害の発症者健康管理手当	1	0.3
その他	2	0.6
自分と同居者の就労収入	2	0.6
合計	332	100.0
無回答	37	
	369	

4) 暮らし向き

Q. 現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じていますか

暮らし向きの評価を、ゆとりがある（「大変」「やや」）人は12.9%、苦しい（「大変」「やや」）とした人は47.7%。

	n	%
大変苦しい	45	12.4
やや苦しい	128	35.3
ふつう	143	39.4
ややゆとりがある	40	11.0
大変ゆとりがある	7	1.9
合計	363	100.0
無回答	6	
	369	

5) 健康保険

Q. HIV治療で利用している健康保険はどれですか

国民健康保険が38.8%、組合保険が30.3%。加入していない人のほとんどは生活保護。

	n	%
組合保険	108	30.3
協会けんぽ	41	11.5
共済組合	24	6.7
その他被用者保険	4	1.1
国民健康保険	138	38.8
家族の保険の被扶養者	9	2.5
後期高齢者医療制度	4	1.1
加入していない	28	7.9
合計	356	100.0
無回答	13	
	369	

6) 健康診断

Q. この1年間、健康保険組合や市区町村、職場の健康診断を受けましたか（診察や治療のための検査は除く）

48.7%の人は地域や職場の健康診断を受けていない。

	n	%
受けた	184	51.3
受けていない	175	48.7
合計	359	100.0
無回答	10	
	369	

7) 障害者手帳

Q. 障害者手帳を取得していますか。取得している人は等級も教えてください（複数回答）

91.3%は免疫機能障害で障害認定を受けている。受けていない人も7.3%。
等級は、免疫機能障害では2級が39.7%、3級が30.8%と多い。

(複数回答)

	n	%
免疫機能障害/HIV	325	91.3
肢体不自由	5	1.4
じん臓機能	1	0.3
精神障害	6	1.7
その他	8	2.2
いずれも取得していない	26	7.3
全体	356	
無回答	13	
全体	369	

障害者手帳：等級

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	合計	無回答 (主問)	非該当	無回答 (等級)	合計
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
免疫機能障害/HIV	n	77	24.4	125	39.7	97	30.8	16	5.1	315	13	31	10
	%									100.0			
肢体不自由	n			1	20.0	1	20.0	2	40.0	5	13	351	369
	%									100.0			
じん臓機能	n	1	100.0							1	13	355	369
	%									100.0			
精神障害	n	1	16.7	1	16.7	4	66.7			6	13	350	369
	%									100.0			
知的障害	n										13	356	369
	%												
その他	n	2	25.0	2	25.0	2	25.0	1	12.5	1	13	348	369
	%									100.0			

8) 障害者雇用制度での就労の有無

Q. 障害者雇用制度で就労したことがありますか

障害者雇用制度で現在就労している人は5.5%、過去に就労していた人は2.5%。

	n	%
かつてこの制度で就労していた	9	2.5
現在この制度で就労	20	5.5
したことはない	294	81.2
制度を知らない	39	10.8
合計	362	100.0
無回答	7	
	369	

9) 障害者雇用制度の利用意向

Q. 今後、障害者雇用制度を利用する意向がありますか

今後、障害者雇用制度の利用意向がある人（利用したい+利用してみてもよい）は44.8%

	n	%
利用したい	53	14.8
利用してみてもよい	107	30.0
利用するつもりなし	197	55.2
合計	357	100.0
無回答	12	
	369	

10) 障害者雇用制度の評価

Q. 障害者雇用制度で就労することについて、次のようなことを感じますか（複数回答）

「通院がしやすくなる」「体調に合わせて働ける」等メリットを感じる一方、「収入が下がる」「昇進や仕事内容が制限される」等デメリットも感じている。とくに「職場で誰に病名が明らかになるか不安」を挙げた人が60.0%と最も多かった。

	n	%
体調に合わせて働ける	106	30.7
昇進や仕事内容が制限される	76	22.0
通院がしやすくなる	105	30.4
収入が下がる	124	35.9
病名をかかす精神的負担が軽くなる	73	21.2
職場で誰に病名が明らかになるか不安	207	60.0
障害者として特別あつかいされたくない	102	29.6
とくに何も感じない	50	14.5
全体	345	
無回答	24	
全体	369	

6 ふだんの生活と人間関係口

1) 地域活動・社会活動・陽性者ネットワーク

Q. この1年くらいの間、次のような活動をしましたか（複数回答）

「友人との外食」が68.4%と最も多い。「インターネット・メール・SNS」は54.3%、提示した項目のいずれもしていない人は13.5%。

	n	%
HIV陽性者の会やグループ活動	28	7.7
国内旅行（宿泊あり）	187	51.4
ボランティア活動	37	10.2
海外旅行	54	14.8
スポーツ活動	127	34.9
インターネット・メール・SNS	200	54.9
趣味・娯楽活動	181	49.7
HIV陽性者とのインターネット・メール・SNS	51	14.0
学習・研究活動	59	16.2
友人との外食	249	68.4
技能習得や資格取得の活動	60	16.5
いずれの活動もしていない	49	13.5
全体	364	
無回答	5	
全体	369	

2) 周囲の人たちへの病名開示

Q. 次の人たちにあなたがHIV陽性であることを知らせていますか。知らせている場合、おおよそ何人くらいに知らせていますか。

この病名開示の質問は、「知らせている」「知らせていない」「そもそも、その関係の人がいない」の3択であったが、回答状況から判断して、その関係性の人がいるか否かは分らないが、病名を伝えている相手はいないことが明らかな場合、「関係者がいるか不明だが、知らせていない」として再集計した。例えば、親が生存しているか否かは分らないが、いずれにしても病名は伝えていない場合がこれに該当する。

関係性別、病名開示

		知らせて いる	知らせて いない	そもそも、 その関係 の人がい ない	関係者が いるか不 明だが、 知らせて いない	合計	無回答	合計
家族・パートナー								
親	n	128	149	43	43	363	6	369
	%	35.3	41.0	11.8	11.8	100.0		
きょうだい	n	120	162	33	48	363	6	369
	%	33.1	44.6	9.1	13.2	100.0		
夫・妻	n	55	39	203	65	362	7	369
	%	15.2	10.8	56.1	18.0	100.0		
パートナー	n	88	32	163	80	362	6	369
	%	24.2	8.8	44.9	22.0	100.0		
元の夫・妻・パートナー	n	47	49	180	87	363	6	369
	%	12.9	13.5	49.6	24.0	100.0		
子ども	n	19	61	212	71	363	6	369
	%	5.2	16.8	58.4	19.6	100.0		
その他の親戚	n	32	164	89	78	363	6	369
	%	8.8	45.2	24.5	21.5	100.0		
友人・知人								
面識のある、HIV陽性者	n	94	72	139	58	363	6	369
	%	25.9	19.8	38.3	16.0	100.0		
面識のある、その他知人	n	138	166	30	29	363	6	369
	%	38.0	45.7	8.3	8.0	100.0		
ネット上の、HIV陽性者	n	43	71	229	20	363	6	369
	%	11.8	19.6	63.1	5.5	100.0		
ネット上の、その他知人	n	10	121	210	22	363	6	369
	%	2.8	33.3	57.9	6.1	100.0		
仕事関係								
同僚・部下	n	25	181	85	72	363	6	369
	%	6.9	49.9	23.4	19.8	100.0		
直属の上司	n	25	169	94	75	363	6	369
	%	6.9	46.6	25.9	20.7	100.0		
雇用主・役員などの管理職	n	26	175	88	74	363	6	369
	%	7.2	48.2	24.2	20.4	100.0		
人事担当	n	15	178	96	74	363	6	369
	%	4.1	49.0	26.4	20.4	100.0		
産業医・社内診療所医師	n	10	160	117	76	363	6	369
	%	2.8	44.1	32.2	20.9	100.0		
その他								
その他の関係の人	n	6	110	128	72	316	53	369
	%	1.9	34.8	40.5	22.8	100.0		

関係性別、病名を知らせている人数

		1人	2人	3~4人	5~9人	10~ 29人	30人 以上	合計	非該当	無回答 (主問)	無回答 (人数)	合計
家族・パートナー												
	n	58	66	3				127	235	6	1	369
親	%	45.7	52.0	2.4				100.0				
	n	70	36	9	4			119	243	6	1	369
きょうだい	%	58.8	30.3	7.6	3.4			100.0				
	n	54		1				55	306	7	1	369
夫・妻	%	98.2		1.8				100.0				
	n	85	2	1				88	274	6	1	369
パートナー	%	96.6	2.3	1.1				100.0				
	n	33	8	6	1			48	315	6		369
元の夫・妻・パートナー	%	68.8	16.7	12.5	2.1			100.0				
	n	10	9					19	343	6	1	369
子ども	%	52.6	47.4					100.0				
	n								331	6	32	369
その他の親戚	%											
友人・知人												
	n	44	19	10	11	7	2	93	268	5	3	369
面識のある、HIV陽性者	%	47.3	20.4	10.8	11.8	7.5	2.2	100.0				
	n	62	29	20	12	11	2	136	225	5	3	369
面識のある、その他知人	%	45.6	21.3	14.7	8.8	8.1	1.5	100.0				
	n	11	8	3	7	6	5	40	320	6	3	369
ネット上の、HIV陽性者	%	27.5	20.0	7.5	17.5	15.0	12.5	100.0				
	n	2	3		1	2	2	10	353	5	1	369
ネット上の、その他知人	%	20.0	30.0		10.0	20.0	20.0	100.0				
仕事関係												
	n	11	7	3	3	1		25	338	6		369
同僚・部下	%	44.0	28.0	12.0	12.0	4.0		100.0				
	n	15	7	1	1			24	338	6	1	369
直属の上司	%	62.5	29.2	4.2	4.2			100.0				
	n	13	10	2				25	337	6	1	369
雇用主・役員等の管理職	%	52.0	40.0	8.0				100.0				
	n	12	1	1				14	348	6	1	369
人事担当者	%	85.7	7.1	7.1				100.0				
	n	7	2	1				10	353	6		369
産業医・社内診療所医師	%	70.0	20.0	10.0				100.0				
その他												
	n	3	1				1	5	310	53	1	369
その他の関係の人	%	60.0	20.0				20.0	100.0				

3) HIV開示しての就学・就労の相談先

Q. HIV陽性であることを伝えて、就学や就労、就職について相談した先を教えてください（複数回答）

「医師」「看護師・コーディネータ」「パートナー・家族」の順だが、誰にも相談していない人が43.0%と最も多い。ハローワークは10.2%、障害者職業センターは1.8%。

	n	%
友人	59	17.3
インターネット上の友人	5	1.5
パートナー・家族	48	14.0
医師	101	29.5
看護師・コーディネーター	43	12.6
医療相談員・ソーシャルワーカー	78	22.8
心理カウンセラー	44	12.9
保健所・保健センター	2	0.6
福祉事務所・市町村福祉担当	20	5.8
ハローワーク・職安	35	10.2
障害者職業センター	6	1.8
障害者対象の就職あっせん会社	3	0.9
ボランティア・患者支援団体	8	2.3
その他	4	1.2
誰にも相談していない	147	43.0
全体	342	
無回答	27	
全体	369	

4) 主治医からの就労アドバイス

Q. HIVの主治医からは、あなたが働くことについて何とされていますか

50.6%の人は「とくに制限なく働くことを勧められている」としている。「時間や仕事内容を制限するよう言われている」は9.8%、「働かない方が良い」は2.0%

	n	%
とくに制限なく、働くことをすすめられている	180	50.6
時間や仕事内容を制限して働くように言われている	35	9.8
働かない方がよいと言われている	7	2.0
とくに何も言われていない	134	37.6
合計	356	100.0
無回答	13	
	369	

5) 将来の就労意向

Q. 将来の生活で、あなたは働くことについてどのようにお考えですか

59.8%の人は「制限なく働いていきたい」としている。32.4%が健康状態に合わせた制限や調整をして働きたいとしている。

	n	%
とくに制限しないで、働いていきたい	214	59.8
健康状態に合わせた制限や調整をして、働いていきたい	116	32.4
できれば働きたくない・働くつもりはない	28	7.8
合計	358	100.0
無回答	11	
	369	

6) 将来の生活設計

Q. ご自身の将来の生活設計について、何年くらい先のことまで考えていますか

1年以上5年未満という直近の将来までのこととした人が24.0%と最も多いが、10年、20年先の長期的な生活設計を考えている人も少なくない

	n	%
1年未満	27	7.4
1年～5年未満	87	24.0
5年～10年未満	84	23.1
10年～20年未満	57	15.7
20年以上先	44	12.1
考えたことがない	64	17.6
合計	363	100.0
無回答	6	
	369	

7) 病気による制約感

Q. 病気や障害をもって生活する上で、ふだん制約を受けたり、自分で制約していると感じることがありますか

最も制約感（かなり＋少し制約あり）が強かったのは性生活80.5%、次いで子供を持つこと74.4%、結婚69.2%、恋人との関係や出会い57.0%、将来の働き方や進路・職業選択40.5%、家族や親せきとの関係35.5%。生活習慣も33.9%が制約ありとしている。

全体に、日々の生活よりも、人間関係や人生設計に関わることへの制約感の方が高い。

		かなり 制約あり	少し 制約あり	ほとんど 制約はない	まったく 制約はない	合計	無回答	合計
生活習慣(食事・喫煙・飲酒など)	n	21	99	90	144	354	15	369
	%	5.9	28.0	25.4	40.7	100.0		
外出や行動の範囲	n	12	53	109	182	356	13	369
	%	3.4	14.9	30.6	51.1	100.0		
現在の働き方や学校生活	n	20	63	95	164	342	27	369
	%	5.8	18.4	27.8	48.0	100.0		
将来の働き方や進路、職業選択	n	45	95	76	130	346	23	369
	%	13.0	27.5	22.0	37.6	100.0		
家族や親戚との関係	n	56	70	85	144	355	14	369
	%	15.8	19.7	23.9	40.6	100.0		
友人との関係	n	36	67	97	155	355	14	369
	%	10.1	18.9	27.3	43.7	100.0		
恋人との関係や出会い	n	127	65	50	95	337	32	369
	%	37.7	19.3	14.8	28.2	100.0		
性生活	n	197	84	25	43	349	20	369
	%	56.4	24.1	7.2	12.3	100.0		
結婚すること	n	192	30	21	78	321	48	369
	%	59.8	9.3	6.5	24.3	100.0		
子供を持つこと	n	213	25	15	67	320	49	369
	%	66.6	7.8	4.7	20.9	100.0		

8) HIV告知以降の生活意識変化

Q. HIV陽性とわかって以降、あなたの生活やお気持ちにはどのような変化がありましたか

HIV陽性とわかって以降の変化として、「健康と生活のバランスを意識するようになった」と思う（そう思う＋まあそう思う）人が70.7%、「日々の生活を大切にようになった」が67.1%、「精神的に強くなった」は44.4%、「人間関係が広がった」とした人は18.6%。

		そう思う	まあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	合計	無回答	合計
日々の生活を大切にするようになった	n	109	130	68	49	356	13	369
	%	30.6	36.5	19.1	13.8	100.0		
人間関係が広がった	n	25	41	120	168	354	15	369
	%	7.1	11.6	33.9	47.5	100.0		
精神的に強くなった	n	64	95	96	103	358	11	369
	%	17.9	26.5	26.8	28.8	100.0		
健康と生活のバランスを意識するようになった	n	116	137	58	47	358	11	369
	%	32.4	38.3	16.2	13.1	100.0		

9) HIVによる差別回避行動

Q. HIV陽性とわかって以降この数年内の生活で、次のことをしたり感じたりしたことがありますか

「病名を隠すような言い訳を考えた」が76.9%、「病気をもっていないようにふるまった」が76.3%と多い。「知人に会うことのない病院を受診した」人も22.4%、「HIVが理由で不本意に仕事をやめた」人も15.2%

		ある	ない	合計	無回答	合計
HIVが理由で不本意に仕事をやめた	n	53	296	349	20	369
	%	15.2	84.8	100.0		
知人に会うことのない病院を受診した	n	79	273	352	17	369
	%	22.4	77.6	100.0		
すすめられたが、障害者手帳の申請をしなかった	n	20	332	352	17	369
	%	5.7	94.3	100.0		
病名を隠すような言い訳を考えた	n	273	82	355	14	369
	%	76.9	23.1	100.0		
とくに病気をもっていないかのようにふるまった	n	271	84	355	14	369
	%	76.3	23.7	100.0		

10) 差別経験

Q. 最近の生活で、HIV陽性者であることで不利な状態におかれたり、これは差別的な対応や待遇ではないかと感じた経験がありますか

ある人（よく＋時々）は19.9%。職場や地域で病名を開示していない人が多いため、直接的な差別経験が少ないためと思われる。

	n	%
よくある	18	5.0
時々ある	53	14.8
あまりない	150	42.0
まったくない	136	38.1
合計	357	100.0
無回答	12	
	369	

7 就労について

1) 就労の有無

Q. 先月末の1週間に、収入をとまなう就労をしましたか（自営の手伝いや内職も含む）
「主に就労」している人は65.0%、「就労していない」人は30.3%

	n	%
主に就労	238	65.0
家事などのかたわら就労	10	2.7
通学のかたわら就労	3	0.8
休んでいたか休職中	4	1.1
就労していない	111	30.3
合計	366	100.0
無回答	3	
	369	

8 就労の状況

1) 1か月の就労日数

Q. 先月1ヶ月間に就労した日数を教えてください（仕事を休んでいた人は0）
就労している人の82.5%は週20日以上働いている。

	n	%
休職中	3	1.2
20日未満	41	16.3
20～23日	142	56.6
24～27日	54	21.5
28日以上	11	4.4
合計	251	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	4	
合計	369	

2) 1週間の就労日数と時間

Q. 先月末の1週間に就労した日数と時間数を教えてください（仕事を休んでいた人は0）

就労している人の90.1%は週5日以上働いている。

	n	%
0日	4	1.6
1日	2	0.8
2日	2	0.8
3日	4	1.6
4日	13	5.2
5日	155	61.5
6日	61	24.2
7日	11	4.4
合計	252	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	3	
	369	

就労している人の79.8%は週35時間以上働いている。週60時間以上の長時間労働者も13.3%

	n	%
休職中	4	1.7
週1～14時間	8	3.4
週15～29時間	22	9.4
週30～34時間	13	5.6
週35～42時間	84	36.1
週43～48時間	39	16.7
週49～59時間	32	13.7
週60時間以上	31	13.3
合計	233	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	22	
	369	

3) 健康問題による休暇・休業

Q. この1年間に、通院や入院、健康上の理由で仕事を休んだ日数を教えてください

健康管理や健康状態を理由に有給休暇をとった人は、就労者のうち38.2%。取得者のうち86.3%は10日以下。

有給休暇		
	n	%
休んでいない	154	61.8
休んだ	95	38.2
合計	249	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	6	
	369	

有給休暇日数		
	n	%
1～5日	38	40.0
6～10日	44	46.3
11～15日	5	5.3
16～20日	6	6.3
21日以上	2	2.1
合計	95	100.0
非該当（Q7_3）	154	
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答（Q7_3）	6	
	369	

健康管理や健康状態を理由に欠勤した人は、就労者のうち14.9%。欠勤した人のうち83.8%は10日以下。

欠勤		
	n	%
休んでいない	212	85.1
休んだ	37	14.9
合計	249	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	6	
	369	

欠勤日数		
	n	%
1～5日	25	67.6
6～10日	6	16.2
11～15日	1	2.7
16～20日	3	8.1
21日以上	2	5.4
合計	37	100.0
非該当（Q7_3）	212	
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答（Q7_3）	6	
	369	

健康管理や健康状態を理由に傷病休暇をとった人は、就労者のうち6.4%。取得者のうち37.5%は10日以下。21日以上は31.3%。

傷病休暇		
	n	%
休んでいない	233	93.6
休んだ	16	6.4
合計	249	100.0
非該当	111	
無回答（主問）	3	
無回答	6	
	369	

傷病休暇日数		
	n	%
1～5日	4	25.0
6～10日	2	12.5
11～15日	4	25.0
16～20日	1	6.3
21日以上	5	31.3
合計	16	100.0
非該当（Q7_3）	233	
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答（Q7_3）	6	
	369	

有給休暇制度がない人も12.0%

有給制度がない		
	n	%
有給制度がある	219	88.0
有給制度がない	30	12.0
合計	249	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	6	
	369	

就労者の39.8%は、この1年間に通入院や健康上の理由で仕事を1日も休んでいない。

通院や健康上の理由では休んでいない		
	n	%
休んだ	150	60.2
休んでいない	99	39.8
合計	249	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	6	
	369	

4) 就労収入

Q. この1年間の、あなたのすべての仕事からの収入（税込）は、どのくらいでしたか

就労している人の、就労による年収は200万円以上300万円未満が20.9%、300万円以上400万円未満が14.2%と多い。

	n	%
なし（0円）	2	0.8
～99万	26	10.3
100～199万	46	18.2
200～299万	53	20.9
300～399万	36	14.2
400～499万	26	10.3
500～699万	32	12.6
700～999万	22	8.7
1000～1499万	5	2.0
1500万以上	5	2.0
合計	253	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	2	
	369	

5) 雇用形態

Q. あなたの雇用形態はどれですか（休職中の方は復職前のこと）

企業の正社員が41.6%と多く、パート・アルバイトが18.0%、自営業9.4%。

	n	%
自営業（個人/家族経営）	24	9.4
事業主（従業員を雇用）	11	4.3
家族従業員	2	0.8
公務員（常勤）	16	6.3
企業・団体の役員	3	1.2
企業・団体の正社員	106	41.6
契約社員	28	11.0
嘱託職員	5	2.0
パート・アルバイト	46	18.0
派遣社員	7	2.7
内職	1	0.4
その他	6	2.4
合計	255	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
	369	

6) 職種

Q. あなたの職種は何ですか

サービス職26.9%、専門技術職25.7%、事務職16.2%など、ホワイトカラーが多く、労務作業的な職種が少ない。

	n	%
専門・技術職	65	25.7
管理職	16	6.3
事務職	41	16.2
販売職	22	8.7
サービス職	68	26.9
保安職	3	1.2
農林漁業	3	1.2
生産工程	10	4.0
輸送・機械運転	6	2.4
建設・採掘	3	1.2
運搬・清掃・包装等	11	4.3
その他	5	2.0
合計	253	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	2	
	369	

7) 勤務先の企業規模

Q. 勤務先（会社や団体全体、自営業）の従業員数は何人くらいですか

勤務先の従業員規模は、1人から1000人以上の大規模企業まで幅広い。

	n	%
1人（あなたのみ）	16	6.3
2～4人	23	9.1
5～9人	18	7.1
10～29人	36	14.2
30～99人	45	17.7
100～499人	56	22.0
500～999人	12	4.7
1000人以上	48	18.9
合計	254	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	1	
	369	

8) 勤務先の業種

Q. 勤務先（会社や団体全体、自営業）の業種は何ですか

勤務先の業種は多様であるが、最も多いのは「医療・福祉」15.4%、次いで「卸売・小売り」10.3%、「宿泊・飲食」9.5%など、全体にサービス産業が多い。

	n	%
農・林・漁	2	0.8
建設	8	3.2
製造	31	12.3
電気・ガス・水道	4	1.6
情報通信	17	6.7
運輸・郵便	10	4.0
卸売・小売	26	10.3
金融・保険	8	3.2
不動産・物品賃貸	4	1.6
宿泊・飲食	24	9.5
医療・福祉	39	15.4
生活サービス・娯楽	10	4.0
学術研究・専門・技術	9	3.6
教育・学習支援	15	5.9
その他サービス	32	12.6
公務	12	4.7
その他	2	0.8
合計	253	100.0
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	2	
	369	

9) 職場でプライバシー漏洩が不安な事項

Q. 伝えていない人にまで、HIVを知られる不安を感じることがありますか（複数回答）

職場で病名漏洩の不安を感じるのは、「健康保険組合から会社への情報」51.4%、「医療費明細書の通知」39.9%が多い。「健康診断」も37.9%。示した9項目いずれも不安を感じない人は16.6%で、83.4%の人がいずれかに不安を感じている。

	n	%
医療費明細書の通知	101	39.9
医療費のレセプト(医療機関からの請求)	70	27.7
社内診療所・産業医	44	17.4
付加給付金の還付	27	10.7
健康保険組合から会社への情報	130	51.4
障害者手帳を利用しての医療費助成	112	44.3
年金や税金控除などの制度利用	89	35.2
HIV陽性を知っている社員の情報管理	38	15.0
健康診断	96	37.9
どれも不安を感じない	42	16.6
全体	253	
非該当（非就労）	111	
無回答（主問）	3	
無回答	2	
全体	369	

10) 仕事・職場の評価

Q. 主な仕事での働き方や職場について、次のことをどのくらい感じますか

職場の長所、短所について11項目を挙げて尋ねたところ、「知らない間に病名が知られる不安」「病名を隠すことの精神的負担」を感じる人が多かった。

		とても 感じる	少し 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない	合計	無回答 (主問)	非該当 (非就労)	無回答	合計
身体的、体力的なきつさ	n	30	99	80	44	253	3	111	2	369
	%	11.9	39.1	31.6	17.4	100.0				
服薬のしにくさ	n	10	46	112	82	250	3	111	5	369
	%	4.0	18.4	44.8	32.8	100.0				
通院のしにくさ	n	18	60	95	77	250	3	111	5	369
	%	7.2	24.0	38.0	30.8	100.0				
職場の人間関係の良さ	n	37	83	91	39	250	3	111	5	369
	%	14.8	33.2	36.4	15.6	100.0				
仕事のやりがいや面白さ	n	59	88	75	27	249	3	111	6	369
	%	23.7	35.3	30.1	10.8	100.0				
全体的な働きやすさ	n	51	102	66	30	249	3	111	6	369
	%	20.5	41.0	26.5	12.0	100.0				
できればやめて、別の仕事に 変わりたい	n	26	47	70	107	250	3	111	5	369
	%	10.4	18.8	28.0	42.8	100.0				
HIV感染症に対する無理解や偏見	n	44	66	82	58	250	3	111	5	369
	%	17.6	26.4	32.8	23.2	100.0				
性行動や性的指向(同性愛など) に対する偏見	n	73	70	60	43	246	3	111	9	369
	%	29.7	28.5	24.4	17.5	100.0				
病名を隠すことの精神的負担	n	86	93	46	26	251	3	111	4	369
	%	34.3	37.1	18.3	10.4	100.0				
知らない間に病名が知られる不安	n	107	75	44	26	252	3	111	3	369
	%	42.5	29.8	17.5	10.3	100.0				

9 非就労の状況

1) 非就労の理由

Q. 就労していない理由を教えてください（複数回答）

非就労の理由は、「年齢が高い」27.1%、「HIV感染症による体調不良」は26.2%、「就職先が決まらない」23.4%など。

	n	%
学生だから	3	2.8
家事や社会活動など他にすることがあるから	12	11.2
資格取得や進学準備のため	8	7.5
経済的に困らないから	10	9.3
定年退職したから	16	15.0
年齢が高いから	29	27.1
HIV感染症による体調不良のため	28	26.2
精神的な問題のため	17	15.9
就職先が決まらないから	25	23.4
仕事をする自信がないから	14	13.1
その他	13	12.1
全体	107	
非該当（就労）	255	
無回答（主問）	3	
無回答	4	
全体	369	

2) 就労準備状況

Q. 現在、仕事探しや自営業の準備をしていますか

非就労者全体の40.0%（60歳未満の非就労者では56.6%）が、就職や自営など就労の準備をしている。

	n	%
仕事を探している	38	36.2
自営業の準備をしている	4	3.8
何もしていない	63	60.0
合計	105	100.0
非該当（就労）	255	
無回答（主問）	3	
無回答	6	
全体	369	

3) 就労希望

Q. 現在、就労する希望がありますか

非就労者全体の56.4%（60歳未満の非就労者では77.3%）が就労を希望している。

	n	%
ある	57	56.4
ない	44	43.6
合計	101	100.0
非該当（就労）	255	
無回答（主問）	3	
無回答	10	
全体	369	

3-1) 就労希望者の非就労期間

Q. 【就労希望者に】就労を希望しているにもかかわらず、就労していない期間はどれくらいになりますか
非就労者のうち就労希望のある人の非就労期間は、1～3年未満が20.8%と最も多かった。49.1%は1年未満であるが、一方で3年以上に及んでいる人も30.2%。

	n	%
1ヶ月未満	4	7.5
1ヶ月～	8	15.1
3ヶ月～	9	17.0
6ヶ月～	5	9.4
1年～	11	20.8
3年～	5	9.4
5年～	7	13.2
10年以上	4	7.5
合計	53	100.0
非該当（就労）	255	
無回答（主問）	3	
非該当（Q8_3）	44	
無回答（Q8_3）	10	
無回答（Q8_3_1）	4	
	369	

4) 就労や就職活動の問題点

Q. 現在、就労や就職活動について、どのような問題点を感じていますか（複数回答）

非就労者が感じている問題点は、「年齢が合わない」42.9%、「仕事内容が合わない」12.2%といった労働条件の問題と、「体力的に不安」35.7%、「精神的に不安」25.5%、「通院との調整がとれない」30.6%といった健康問題を挙げた人が多かった。

職場28.6%と相談先16.3%での「プライバシー漏洩不安」を挙げた人も多く、「病気のことをうまく説明できない」15.3%と感じており、「HIVを伝えて就労相談できる先がない」22.4%など、病名を伝えるか否か、伝える場合どう伝えるか、伝えない場合どう働くかといった、職場のプライバシーと健康の問題を挙げた人も多かった。

	n	%
年齢が合わない	42	42.9
収入が合わない	9	9.2
仕事内容が合わない	12	12.2
自分に合う仕事がわからない	18	18.4
家事・育児との調整がとれない	5	5.1
通院との調整がとれない	30	30.6
体力的に働けるか不安	35	35.7
精神的に働けるか不安	25	25.5
職場でプライバシーがもれないか不安	28	28.6
相談先でプライバシーがもれないか不安	16	16.3
HIVを伝えて就労相談できる先がない	22	22.4
病気のことをうまく説明できない	15	15.3
その他	2	2.0
とくに問題は感じない	17	17.3
全体	98	
非該当（就労）	255	
無回答（主問）	3	
無回答	13	
全体	369	

10 日本のエイズ対策への評価

1) 行政、医療、社会のエイズ対策評価

Q. 日本のHIV/エイズ関連の対策について、どのように感じていますか

医療への評価は高いが、一方で、学校や公的機関などでのエイズやマイノリティへの偏見対策への評価が極めて低く、9割の人が整っていない（「あまり整っていない」「整っていない」）としている。陽性者からみて感染予防対策が整っていないとしている人が63.8%。

日本のHIV/エイズ関連の対策について

		整っている	まあ整っている	あまり整っていない	整っていない	合計	無回答	合計
陽性者への治療や医療体制	n	146	164	38	10	358	11	369
	%	40.8	45.8	10.6	2.8	100.0		
陽性者の就労や職場対策	n	10	71	162	96	339	30	369
	%	2.9	20.9	47.8	28.3	100.0		
陽性者が子どもをもつ選択に対する環境	n	7	52	155	112	326	43	369
	%	2.1	16.0	47.5	34.4	100.0		
HIV/エイズ対策に、陽性者の意見を反映させる体制	n	10	67	182	78	337	32	369
	%	3.0	19.9	54.0	23.1	100.0		
HIV感染予防の教育や啓発	n	28	96	166	53	343	26	369
	%	8.2	28.0	48.4	15.5	100.0		
社会でのHIV/エイズへの理解や偏見の解消	n	7	28	144	165	344	25	369
	%	2.0	8.1	41.9	48.0	100.0		
公的機関の職員のHIV/エイズへの理解や偏見の解消	n	12	57	150	121	340	29	369
	%	3.5	16.8	44.1	35.6	100.0		
学校での性的マイノリティ(同性愛など)への理解や偏見の解消	n	4	16	122	190	332	37	369
	%	1.2	4.8	36.7	57.2	100.0		
社会での性的マイノリティ(同性愛など)への理解や偏見の解消	n	5	16	129	190	340	29	369
	%	1.5	4.7	37.9	55.9	100.0		

11 薬物について

1) 薬物使用経験の有無

Q. これまでに、ドラッグや薬物を使ったことがありますか

52.1%の人がこれまでに何らかの薬物・ドラッグを使用した経験がある。

	n	%
ある	188	52.1
なし	173	47.9
合計	361	100.0
無回答	8	
	369	

1-1) 種類別薬物使用経験

Q. 【使ったことがある方に】次のドラッグや薬物を、この1年間または過去に使ったご経験があるか教えて下さい

使用経験率（この1年使用+過去使用）は、全体のうちラッシュ47.8%、ED薬29.3%、ゴメオ22.6%、脱法ドラッグ17.6%、ガス12.0%、覚せい剤9.8%、大麻8.9%、MDMA5.9%、シンナー4.5%の順。コカイン2.8%やヘロイン0.8%は少ない。

この1年間の使用経験率（%a）は、ラッシュ8.9%、ED薬8.7%、脱法ドラッグ5.9%、覚せい剤2.0%、ガス1.7%。その他の薬物は1%未満とわずか。

薬物使用経験が「ある」とした人の各薬物の使用率（%b）をみると、ラッシュが92.4%と高率で、ED薬56.8%、ゴメオ43.8%、脱法ドラッグ34.1%、ガス23.2%、覚せい剤18.9%など。

	いずれかの薬物使用経験あり				合計	無回答 (主問)	無回答	合計	
	この1年 に使った	過去に 使ったこ とがある	該当薬物 は使って いない	いずれの 薬物も使 用経験な し					
脱法ドラッグ (ハーブ・リキッド・パウダー・アロマ・ソルト)	N	21	42	122	173	358	8	3	369
	%a	5.9	11.7	34.1	48.3	100.0			
	%b	11.4	22.7	65.9		100.0			
ぼっき薬・ED薬 (バイアグラ・シアリス・威哥王・三便宝)	N	31	74	80	173	358	8	3	369
	%a	8.7	20.7	22.3	48.3	100.0			
	%b	16.8	40.0	43.2		100.0			
5MeO-DIPT (ゴメオ・フォクシー)	N	3	78	104	173	358	8	3	369
	%a	0.8	21.8	29.1	48.3	100.0			
	%b	1.6	42.2	56.2		100.0			
ラッシュ (亜硝酸アミル系・ポップパー・RUSH)	N	32	139	14	173	358	8	3	369
	%a	8.9	38.8	3.9	48.3	100.0			
	%b	17.3	75.1	7.6		100.0			
ガス(エアダスター・ライターガス)	N	6	37	142	173	358	8	3	369
	%a	1.7	10.3	39.7	48.3	100.0			
	%b	3.2	20.0	76.8		100.0			
シンナー (有機溶剤・ボンド・トルエン・エーテル)	N	0	16	169	173	358	8	3	369
	%a	0.0	4.5	47.2	48.3	100.0			
	%b	0.0	8.6	91.4		100.0			
大麻 (マリファナ・ハシッシ・ハッパ)	N	2	30	153	173	358	8	3	369
	%a	0.6	8.4	42.7	48.3	100.0			
	%b	1.1	16.2	82.7		100.0			
覚せい剤 (シャブ・エス・スピード・ヒロポン)	N	7	28	150	173	358	8	3	369
	%a	2.0	7.8	41.9	48.3	100.0			
	%b	3.8	15.1	81.1		100.0			
MDMA(エクスタシー・X・バツ・アダム)	N	0	21	164	173	358	8	3	369
	%a	0.0	5.9	45.8	48.3	100.0			
	%b	0.0	11.4	88.6		100.0			
ヘロイン(モルヒネ・けし)	N	0	3	182	173	358	8	3	369
	%a	0.0	0.8	50.8	48.3	100.0			
	%b	0.0	1.6	98.4		100.0			
コカイン(クラック・コーク・ロック)	N	0	10	175	173	358	8	3	369
	%a	0.0	2.8	48.9	48.3	100.0			
	%b	0.0	5.4	94.6		100.0			
その他あれば教えて下さい	N	1	4	180	173	358	8	3	369
	%a	0.3	1.1	50.3	48.3	100.0			
	%b	0.5	2.2	97.3		100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合

%bは、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

注射針・注射器を使ったドラッグの使用経験のある人は全体の9.3% (%a)、薬物使用経験のある人のうちでは19.5% (%b)。

注射器・針を使った薬物の使用経験

	N	いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	合計	無回答		合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない			(主問)	無回答	
注射器・注射針を使ったドラッグや薬物		6	25	128	173	332	8	29	369
	%a	1.8	7.5	38.6	52.1	100.0			
	%b	3.8	15.7	80.5		100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合
%bは、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

セックスの時にドラッグを使った経験のある人は全体の40.9% (%a)、薬物使用経験のある人のうちでは82.8% (%b)。

セックスの時に薬物を使った経験

	N	いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	合計	無回答		合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない			(主問)	無回答	
セックスの時にドラッグや薬物を使った経験		23	117	29	173	342	8	19	369
	%a	6.7	34.2	8.5	50.6	100.0			
	%b	13.6	69.2	17.2		100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合
%bは、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

気持ちを上げる・アップするためにドラッグを使った経験のある人は全体の25.0% (%a)、薬物使用経験のある人のうちでは51.5% (%b)。

気持ちを上げる・アップするために使った経験

	N	いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	合計	無回答		合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない			(主問)	無回答	
気持ちを上げるためにドラッグや薬物を使った経験		13	71	79	173	336	8	25	369
	%a	3.9	21.1	23.5	51.5	100.0			
	%b	8.0	43.6	48.5		100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合
%bは、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

1-2) 薬物開始時期

Q. 次のドラッグや薬物をはじめて使ったのは、ご自身のHIV感染を知る前でしたか、知った後でしたか

脱法ドラッグ/ラッシュなどの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が89.2%、感染判明後に始めた人が7.4%。

ゴメオ/覚せい剤/MDMAなどの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が83.8%、感染判明後に始めた人が7.6%。

注射器・注射針を使ったドラッグの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が83.3%、感染判明後に始めた人が16.7%。判明後の使用開始者の割合が高い。

		HIV感染を	HIV感染を	時期不明	使ったこと	いずれの	合計	無回答	無回答	合計
		知る前	知った後	だが使った	はない	薬物も使 用経験なし		(主問)		
脱法ドラッグ/ラッシュ/ ガス/シンナー	n	157	13	6	11	173	360	8	1	369
	%a	43.6	3.6	1.7	3.1	48.1	100.0			
	%b	89.2	7.4	3.4			100.0			
5MeO-DIPT/大麻/ 覚せい剤/MDMA/ ヘロイン/コカイン	n	88	8	9	82	173	360	8	1	369
	%a	24.4	2.2	2.5	22.8	48.1	100.0			
	%b	83.8	7.6	8.6			100.0			
注射器・注射針を使った ドラッグ	n	5	1	0	181	173	360	8	1	369
	%a	1.4	0.3	0.0	50.3	48.1	100.0			
	%b	83.3	16.7	0.0			100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合

%bは、質問項目の該当薬物を使用した経験のある人のうちの割合

1-3) 薬物使用量のコントロール感

Q. ドラッグや薬物を使う量や回数について、ご自身でコントロール・調整できていますか

薬物使用経験のある人のうち88.3%の人は、薬物の使用量や回数をコントロールできている（「できている」「おおよそできている」）と感じている。

	n	%
できている	127	70.6
おおよそできている	32	17.8
あまりできていない	11	6.1
できていない	10	5.6
合計	180	100.0
非該当	173	
無回答（主問）	8	
無回答	8	
	369	

1-4) 今後の利用意向

Q. 今後、ドラッグや薬物の使用について、どのようにしたいとお考えですか

薬物使用経験のある人のうち、75.7%は「すでにやめた」としており、14.4%は利用継続意向を示している。

	n	%
もっと使いたい	1	0.6
今のまま使いたい	16	8.8
減らして使いたい	9	5.0
使うのをやめたい	18	9.9
すでにやめた	137	75.7
合計	181	100.0
非該当	173	
無回答（主問）	8	
無回答	7	
	369	

2) 必要な薬物の情報や相談

Q. ドラッグや薬物について、あなたが必要とおもう情報や相談を教えてください（複数回答）

全体の35.2%の人は、とくに必要な情報や相談はないとしている。
「薬物の基礎的な情報」37.1%の他、「HIVと薬物との関係」36.8%、「薬物をやめるための方法や支援先」22.6%を挙げた人が多かった。「友人やパートナーなどの薬物使用の相談」も7.2%の人が挙げていた。

	n	%
薬物についての基礎的な情報	118	37.1
薬物をやめるための方法や支援先	72	22.6
HIVと薬物との関係について	117	36.8
友人やパートナー、家族などの薬物使用 についての相談	23	7.2
とくに必要な情報や相談はない	112	35.2
その他具体的に教えてください	7	2.2
全体	318	
無回答	51	
全体	369	

3) 薬物の相談先

Q. ドラッグや薬物について話したり相談したことがある先はどれですか（複数回答）

誰にも話したり相談したことはない人が59.8%と多かった。
主な相談先は、友人、パートナー・恋人・配偶者、HIV陽性者の知人など、インフォーマルな関係の人であった。

HIV治療の医療者に相談しているとした人は7.5%。
薬物専門の医療機関や精神保健福祉センター、保健所などの専門相談機関に相談した人は極わずかであった。薬物使用者の集まり（NA、ダルク等）の利用も2.6%と少なかった。

	n	%
友人	81	26.5
パートナー・恋人・夫・妻	44	14.4
親・きょうだい・親せき	10	3.3
HIV陽性者の知人	22	7.2
インターネット上の知人	10	3.3
ボランティア・患者支援団体	8	2.6
薬物使用者の集まり（NA, ダルクなど）	8	2.6
保健所	2	0.7
精神保健福祉センター	5	1.6
HIV治療の医療者	23	7.5
精神科・神経内科	8	2.6
薬物専門の医療機関	3	1.0
誰にも話したり、相談したことはない	183	59.8
全体	306	
無回答	63	
全体	369	

2014年11月発行

平成26年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
第3回「HIV陽性者の健康と生活に関する実態調査」
B調査【中核拠点病院等調査】報告書

編集：若林チヒロ(埼玉県立大学)
：生島嗣(特定非営利活動法人ぷれいす東京)

地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト

<http://www.chiiki-shien.jp/>

研究班へのお問い合わせ

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
特定非営利活動法人ぷれいす東京 研究事業部 担当：生島、大槻
kenkyu.jimu@gmail.com

調査研究へのお問い合わせ

埼玉県立大学健康開発学科 若林チヒロ
wakabayashi@spu.ac.jp

データを引用される際にはご一報ください。

本報告書は、平成26年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」班（研究代表：樽井正義）
分担研究「HIV陽性者の生活と社会参加に関する研究」（分担研究者：若林チヒロ）
の助成にて制作しました。